

K 子 さ ま へ

父 母

柳 原 靖 子

そこここに、春の訪れを思わせる季節となつてまいりました。御無沙汰してまううちに、もう桃のお節句でございますね。また卒業式も間近く、何かとお忙しうございましょう。三月は、眼の廻るような忙しさの間に、ふっと、淋しさや嬉しさが、こみあげてくるような月でございますね。

何年前になりますかしら、私はまだ、あなたと同じように幼稚園におりました頃、はじめて受け持った組の卒業式には、泣けて泣けて仕方がございませんでした。「先生どうしてそんなに泣くの」と、お子さんに云われたのを思い出しますけど、肉親を手放すのに似た悲しみですわね。それから何年か経ち、立場を変えた昨年のこと、長女

の卒業式でも、私は涙を止めどなく流してしまいました。成長したわが子を見て、先生への感謝で一ぱいでございました。でも私の隣の席にいらしたお母様が、怪訝な面持ちでこちらをおむきになったので、何かはっとしてしまいました。その方は、私のように泣き虫ではなかったのでしょうか。でもまた、いつも幼稚園にはあまりお見えにならない方でしたので、涙のお出になるまでにはならなかったのではないかと考えられました。

先生と母親との結びつきを、一人ひとり、もっと密接にしなくては、やっと一人歩き出来たばかりの子どもの教育は無理ではないか、とつくづく考えました。方法は

いくらかあると思いますが、その一つとして、家庭訪問ということをとりあげてほしいと思います。いつか、私ができることを話しましたら、家庭訪問は弊害の方が多いで、しないことにしている」とおっしゃいましたわね。特別に、日を決めての訪問でなく、病気でお休みしているとき、お見舞うとか、ちょっと送ったついでなどと不意に行けば、大御馳走して待ってもいいし、大層なお土産を用意してもいいでしょう。一人残らず行ってあげなくてはなりませんから、大勢の所や、あなたの所のように、遠くから通ってくるお子さんのある所ではひと仕事でしようし、またわれわれにしてみれば、不意にいらっしやると、お掃除をよくしていない時など、大あわてでしようけどね。それは仕方ないとして、お子さんにしても、お母様がたにしても、何か先生を身近に感じて、態度も翌日から一変するのではないかと思いますけど、どうかしら。どうぞもう一度考えてみて下さい

ませぬ。

いつか、お体をお悪くなさったとか伺いました。もうすっかりおよろしいの、どうぞくれぐれもお大事にね。あんなにお丈夫でしたあなただでも、お体おこわしになったのですもの、幼稚園の先生って、如何にたいへんかがわかりますわ。あなたには文句はないのですが「優しさ」ということ、必要だとつくづく思います。私たち、昔、

「あの人は保育が上手だ」とよく問題にもし、また尊敬もしましたね。ですけど、母親としてわが子をあずけると、そんな事は問題じゃなく、優しい先生であってほしい、とひそかに願わずにはいられません。

自分は、うちでがみがみおこるくせに、虫のいい話ですがね。長女は御存知のように無口で、人の好き嫌いのはげしい性格ですよ、私のしつげが悪いのですけどね。幼稚園に入って一年間、遂に無言の行を通し、二年目からやっぱつぽつぽつ口をきき出しました。始めて口を切ったという先生

が、園で一番優しい先生であつたのです。

その先生は、いつもにこにこして、子どものお話によると「おこつたの一度もない」ということです。腕白小僧も、生意気おしゃまさんも、それに、うちでどなられ通しという手のつけられないようなお子さんもいたのですけど、にこにこからお顔を変えられないのです。少々徹底しないこともあつて歯がゆいとも思われますが、そんなことより、やっぱり母親としては、お優しいということの方を強く望みます。

この頃のように暖かな日がつづきますと、今まで閉め切つてストーブをかこんでいたお子さん達が、思い思いに外に出て、さながらふりそそぐ太陽の精の如くビビチとはね返つてゐる姿を見ていますと、まさに楽しんでございます。家にもどれば仕事も山ほどございますのに、ちよつと子どもを園まで送つて来ては、帰るのも忘れてその光景に眺め入つてしまいます。そしてその中に、お子さんと同じような清々しい

瞳をして、かけ廻つていらつしやる若い先生がたを見出した時は、また一段と嬉しさを増します。その先生がたつて、御気分のすぐれない日も、悩みもないことはないでしょうの、それをちつとも現さずお子さんがたと遊んでゐるお姿は、尊くさえ思われます。かつての私は、そんなことちつとも考えなかつたのですから、きつとよくない先生だつたのでしようと、今更ながらお子さんにすまなくなつてしまいます。

朝おはじまりになつて、お名前を一人ひとりお呼びになるでしょう。その時、どうか出席簿からちよつと眼をはなして、その日のお子さんの顔色をみてほしいのです。変りなく健康かどうか、またついでに、爪だとか、手だとか、清潔の点も、精神的な顔色も調べていただければ、此の上ないと存じます。多分あなたの所ではしてらっしゃるのではないかと思ひましたけれど。私をはじめ、幼稚園に実習に行きました時、先生がお子さんに対して、丁寧過ぎ

るほど丁寧にしていらっしやるのにびっくりしたものでしたが、たしかに幼児に対しては、そうでなくてはいけないと思います。いまだかつて、幼稚園で先生の不注意から事故をおこしたのをきいたことがないのは、この丁寧過ぎるくらい丁寧なのが功を奏しているのだらうと思います。にもかかわらず、一般の幼児の死亡率で一番多いのが、交通事故とか、いまわしいことだと思いますね。実地に教えるのも大切ですが、交通遊びとでもして、遊びのなかに取入れて、よくよく教えてほしいと思います。痛ましい事故を決しておこさないようにしたいものです。これはよけないことかもしれません。幼稚園に一人くらいは御自分のお子さんをお育てになった経験者がおられたら、どんなにか心丈夫かと思われます。

うちの下の坊やは幼稚園に通い出してから一年にもなろうとしているのですが、雨の日は傘を持たせてやった日でも、私迎えに出てしまいますの、いけないとも思いま

すが、踏切り番のいなふみ切りと、非常に車のはげしく通る大通りを渡らないとなりませんので、傘に気をとられている子どももしものことを考えると、いてもたってもいられなくなりますの。それでのこの時間を見はからって出掛けて行きますのよ。馬鹿な母親と、お笑いにならないでね。

いつかこんなことがございました。急におひるから雨が落ちて来ましたので、迎えに出ましたのよ。もう少しで幼稚園という所で、私の前を急いでいらしたお母様のとへ、いの一歩に幼稚園から飛び出して来たお子さんが「ワァー」と泣きながらとびつきました。そこまでは大して気にも止めなかつたのですが、それから「ママのバカー」の連呼と、ぶったりけったり、お母様の差し出す傘もはねのけてなざるのです。私も思わず足を止めてしまいました。よくよくきくと「何日まで持ってらっしやい」というものを、お母様がお忘れになって持たせなかつたとか、先生が「あなたのお母さ

ん随分忘れんぼね」とおっしゃったということです。先生の方は軽くおっしゃったのでしょうが、お子さんの方では相当ひどくびいたのでしょう。お母様をみつけるなり爆発したというわけです。子どもって随分敏感なのですわね。そうでない時も、またそうでないお子さんもあるのでしょうが、先生の一挙手一投足がどこにひびくかと思うと、うかうかしてはられませんね。

今頃は、暖かな日射しを受けて、にこやかなあなたが、きらきら輝くお子さんがたの瞳を一身に集めて、お伽噺話でもしてらっしやるのではないでしようか。そんなお姿が浮かんでまいります。あの澄み通ったお声までがきこえてくるような気がいたします。本当に幼児教育にたずさわっているかたがたは御幸福と思えます。羨しうございますわ。

どうぞくれぐれもお体お大切に、いつかまたおめもじ出来まますのを楽しみにしております。

かしこ